

令和 7 年 5 月

第14回 G20首席農業研究者会議（MACS）の 結果概要について

1. 5月26日から28日に、G20首席農業研究者会議（MACS）が南アフリカ共和国において開催され、我が国からは信夫研究総務官（代表）、小山（国研）国際農林水産業研究センター（JIRCAS）理事長、他が出席しました。
2. 会議では、信夫研究総務官から、
 - ① 食料・農業・農村基本法の改正、みどりの食料システム戦略、農林水産研究イノベーション戦略、スマート農業技術活用促進法等の日本の施策とその取組状況
 - ② アジア・モンスーン地域を中心とした国際共同研究として、生物学的硝化抑制（BN I）作物、森林と水田が共存した持続的で多様なファームリングシステムの構築等についての紹介を行いました。
3. 共同声明（コミュニケ）については、以下のとおり採択されました。（過去3年は議長総括及び成果文書）
 - ① 持続可能な農業・食料システムの実現には生物多様性や遺伝資源の管理、土壌の健康、CSA（Climate-Smart Agriculture）、バイオエコノミー、デジタル農業等に関する研究、イノベーション、レジリエンスの強化などが重要であるという共通認識が確認され
 - ② また、我が国の提案である「知的財産権の保護がイノベーションへの投資を強化するために重要な要素であると認識している」の文言が盛り込まれるなど

我が国の認識や主張を適宜行い、議論に貢献しました。

